

チートサイヤ人がダン  
ジョンにいるのは間  
違っていませんか？

ぽた焼き改

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

神様（オツサン）にサイヤ人（チート）をもらってダンジョンに出会いを求めめるのは間違っているだろうかの世界で無双& a m p ;ハーレムがある主人公最強、しよせん俺TUEEEEEEEの物語であります！

駄作に駄文、台本形式でお贈りしていますのでご理解お願いいたします m ( ) m

それでもいいという穏やかな心をお持ちのサイヤ人様はどうぞよろしく願います ( \* ≧ ≦ \* ) 作者は嬉しさのあまり、フンフンダンスを踊っている事でしょう

激しい怒りによつて目覚めた伝説の戦士様（つまんないと思つた方）はブラウザバツ  
クという名のサイヤ人用ポッドがありますのでそちらに乗つてお帰り下さい m（  
m

# 目次

第1話	異世界転生ってマ?	1
第2話	特典? 決まってる: : 俺を不老不死にし r	10
第3話	修業じゃあああ! あつ: : 無理 k	20
第4話	憧れの存在悟空さんとの修業開始! その1	28
第5話	悟空さんとの修業その2! 修行はツライよ: :	41
第6話	いきなりの戦闘!?! ちよつ!?! まつ!?	50

# 第1話 異世界転生ってマ?

??? 「目覚めよ．．．少年よ．．．目覚めよ．．．」

声が．．．声が聞こえる．．．俺を呼ぶのは．．．誰だ？

??? 「さあ．．．目覚めるのだ．．．少年よ．．．」

俺を呼ぶ声がする．．．よし．．．

俺は寝ていたであろう上半身だけバツと起き上がり、瞑っていた眼を開いて目前の人物を見た

．．．なんか、オッサンがいるんだが．．．

するとオッサンは俺が眼を覚ましたのに気が付き、声を掛けようとした

オツサン「おお！目覚め「何だ夢か。んだよ．．．夢見るんだったら可愛い女の子の夢を見ろよ俺」つてちよいちよいちよいちよい!?寝るな寝るな!」

夢に出てきたオツサンは再び寝ようとする俺を止めようと制止の声を掛けるが残念だったな！

俺「Zzzz．．．」

オツサン「早っ!?寝るの早っ!?ちよっ!?待つて!?ねえ君!?起きて!?おい!?ちよっと!?!」

多分1時間後．．．クルッポークルッポー

俺「んう．．．ああああ!．．．ふああ．．．良く寝たわあくゴキツゴキツ」

オツサン「．．．．．ほんと良く寝たね?君．．．」

俺「ん?あれ?夢で見たオツサンじゃないですか・・・とりあえず、おはようございます」

オツサン「あつはい、おはようございます・・・じゃないよ!!」

おお・・・オツサンが乗りツツコミしてる・・・

オツサン「したくて言ったんじゃないよ!!」

っ!?バカな・・・俺の心の声が聞こえるだと・・・?

オツサン「そりやそうさ!なんたって僕は神様だからね!」

嘘つけ・・・どこにビールっ腹の半そで白シャツの青と白の縞パンツ履いたバーコードハゲのオツサンが神様なんだよ

あんた言われた事ない?年頃の娘に「お父さんの服と私の服を一緒に洗濯機に入れな

いで」って冷たい眼をしながら言われた事ない？

そう言った瞬間、オッサンはガクツと膝を着きながら

オッサン「何で分かったんだよおおお!!うおおおん!!レオナアアア!!」

と言いながら泣き叫んでいた・・・

1つ分かった事は、このオッサンの娘の名前がレオナだと言う事だな(全然関係ない)

10分後クルツポークルツポー

オッサン「グスツ・・・恥ずかしい所を見せてしまったね」

俺「ほんとですよ、オッサンの号泣シーンなんて誰得なんですか」

オッサン「いや元々君のせいだからね!?!僕の1番の悩みを当てて号泣させた君のせい

だからね!?!?  
!?!?

俺「えく・・・でも、思春期の子ましてや女の子じゃ尚更普通の反応じゃないですか?  
?世の中のお父さんが必ずしも通る道ですよ」

オツサン「だけどね?僕を目の前にしながら普通言うかい?昔は「私、大きくなつたらお父さんと結婚する」なんて言ってくれていた子があんな冷たい眼をした子になるなんて・・・」

俺「それが思春期つてもんなんすよ!てか、ここはどこなんです?何でなにもないの?  
?」

オツサン「ハツ!?そ、そうだったそうだった!!ん!んん!!・・・目覚めし人の子よ・・・  
お前を呼んだのは他でもな「いや、もう素を知ってるんで今頃神みたいな言葉を言わなくてもいいですよ?」・・・チエツワカッタヨ」

俺「聞こえてる聞こえてる」

オツサン「ゴホンッ！……ここは生と死の狭間、まあいわゆる境界線って所だよ」

俺「生と死の狭間……という事は俺は……」

死んだって事か……マジで？

オツサン「マジマジ！」

うるさいよオツサン

オツサン「酷い!？」

俺「んで？どうして俺は死んだんです？確か俺はコンビニの本の所で立ち読みしてた筈だけど……」

オツサン「そうだね、そこに運良く君がいた所に車が突っ込んで事故が起き、本を読

「んでた君は引かれて死んでしまったんだよ」

「ああ……そうだったんかあ……」

オッサン「因みに原因はお年寄りのアクセルとブレーキを間違えた為に起きた事故だったんだ」

「うむ……なんか、妙にリアリティがあるなあ」

オッサン「まあ、現実にもその関連の事故はあるしね？」

「おいおい……メタ発言はやめい!？」

オッサン「おつと……」

「全く……それでオッサン……神様は何で俺なんかをここに連れてきたの？」

オッサン「それはね? 本来なら君はまだ死なない年齢だったんだ……でも、君は死

んでしまった・・・そして、君のいた世界は僕の管轄で」

俺「ズバリ！自分の管轄で不慮の事故が起きた事で貴方はその報告書を書かなくては  
いけなくなつた。だが、それを書くのは非常に面倒くさい為、いつそ俺を違う世界に転  
生させちゃえば書かなくもなるし、俺も第2の人生を得られる Win Win な結果にな  
ると言う事でしょう！」

どこから取り出し装着したか分からないぐるぐる眼鏡を俺はクイツクイツとしなが  
ら空いた手でオツサンを指差していた（完全に○男である）

オツサン「・・・すつ・・・凄いな君・・・全部正解だよ・・・えっ？もしかして僕  
の事好きなの？いやあでも、僕には妻と娘が」

俺「バカな事いつてんじやねえぞこのハゲ野郎。照れるんじやねえよブツ殺すぞ？」

オツサン「す・・・すいませんアークワカタ。・・・そ、それで？一応聞くけど君  
はいいのかい？違う世界に転生しても？僕的にはその方が助かるんだけど」

俺「ん?当たり前じゃないですか!異世界転生・・・密かに憧れてたんですよ!!まさか現実になるなんて!」

オツサンはニコツとしながら「そうかい」と言っていた

オツサン「それでは、改めて神田龍悟君・・・どの異世界に行きたいんだい?」

神田龍悟・・・生前21歳独身・・・初異世界に行きます!!

## 第2話 特典？決まってる・・・俺を不老不死にし

神「さて、早速転生してもらいたいんだけどその前に特典をあげなくちゃね！」

龍悟「うおおお!!TO☆KU☆TN!?マジで!?やったああああ!!」

神「そ、そんなに喜ぶとは・・・それじゃあ、好きなの言ってるね？」

龍悟「分かりました!!それでは遠慮なく・・・俺を不老不死にしるおおおお!!!」

神「なに言ってるの？バカなの？死ぬの？」

龍悟「女の子に言われるならまだしも、オッサンには言われたかねええええ!!」

神「早くバカな事言っていないで決めてくれるかい？あと5分で異世界に行っちゃうか

らっやっ..」

ぐぬぬ・・・ハゲオツサンに言われるとは・・・てか、5分!?短くね!?もうちよつと考える時間をですぬ・・・

神「あと4分しかないよ？」

ぬわああああ!?ちきしよおおお!?もう1分もたつてやがるううう!?

どうする!?どうする!?

王の財宝!?!いや、神話なんて知んねえし・・・ゴムゴムの実の能力!?!ルフィは確かに好きだけどなんか、違うな・・・九尾の力!?!いやいやいや、あんなバケモン俺に操られるかよ・・・

神「大丈夫?あと、1分くらいだけど・・・」

Nooooooooo!?!クソおおお!?何で最初にフリーザ様のセリフなんて言っちゃまった

んだよおおお!!?

ん?フリーザ様・・・ドラゴンボール・・・ハッ!?

龍悟「さ、サイヤ人にして下さい!!あとは、修行すればするほど強くなるようになる  
と、精神と時の部屋、無くならない仙豆を下さい!!」

神「うん!分かったよ・・・あと、超サイヤ人とかはどうする?」

龍悟「あれ?まだ時間あつたの?」

神「あと10秒だよ?9、8、7・・・」

龍悟「のわあああ!?!超サイヤ人は4とゴットブルーまでなれるようにおねが「はい!  
時間切れく!んじゃ、異世界に行ってもらうねく?」えっ!?!ちよっ!?!まっ」

すると次の瞬間、俺の身体がキラキラと輝いて薄くなつて・・・つて薄くなつて!?!お、

オツサン!?

神「心配しないで!最後の願いは叶えたからさ?第2の人生を楽しんでらっしゃい!」

オツサ・・・神様・・・ありがとう!!

神「君に幸あれ・・・」

そうオツサ・・・神が言うのと龍悟は綺麗に消えていった・・・

龍悟が消えた後、突然扉がガチャつといいながら開いた

レオナ「あつ!お父さんここにいたんだ?」

神の娘、レオナがやって来た。栗色の長い髪をしており、整った顔立ち・・・所詮は美人と言うやつである・・・なぜあんなオツサンからこんな美人が出来たのか不思議で

ある

神「なんか、誰かに悪意のある説明をされたような・・・」

レオナ「なに言ってるの？お父さん・・・」

と冷ややかな目線を送るレオナさん

神「ああ〜いや、何でもないんだ・・・んで、僕に用事かい？」

レオナ「えっ!?!ああ〜・・・ウ〜ンと・・・はい、これ・・・」

レオナが何故か顔を背けながら、恥ずかしそうにリボンを付けた袋を渡してきた

神「・・・えっ?これって・・・」

すると、レオナは顔を背けながらも答えた

レオナ「きよ、今日はお父さんの誕生日でしょ?だ、だから・・・その・・・プレゼント作ったの・・・クツキーを・・・」

ごめんね龍悟君・・・先に僕に幸が来てしまったようだ・・・

その時、神は娘からのプレゼントを受け取った後、幸せな顔をしながら気絶した

レオナ「ちよっ!?お、お父さん!?お父さああん!」

その頃の龍悟君は・・・

龍悟「・・・・・・・・・・うん？」

知らない天井だ・・・よし！転生したら一番に言いたかった事が言えたぜ！！

龍悟「つと・・・・・・・・ふむ・・・・・・・・なんとも古風な家ですなあ？」

周りを見ると、木の机と椅子に何故かある籠に入ってる果物、天井には古いランプ：：  
えつと、ロウソクを入れるタイプだな！がある

龍悟「取り敢えず果物いただきますか・・・」

俺は机にあった林檎を掴み、シヤクツと音をたてながら食べる

龍悟「あつうめえ!・・・あれ?」

次の果物食べようとしたらなくなってる・・・誰だ!!俺の果物食べた奴は!!!

龍悟「・・・俺しかいねえか・・・」

てか、いつのまに食べたんだ?・・・しかも、まだ足りねえ・・・腹へった・・・ん?

龍悟「あつ・・・あの仏と書いてある茶色い壺は!!」

俺は勢いよく蓋を開けると緑色の豆がいっぱいあるのを見つけた

龍悟「うおおおお!! 仙豆だああ!! さっすが神様!!」

さっそく一粒・・・カリッポリッポリッ・・・ゴクンッ

龍悟「うおっ!?!・・・すげえな・・・一気に腹一杯になったぞ!!」

さて・・・仙豆があるって事は、精神と時の部屋もあるはずだ・・・何処にあるん・・・

「精神と時の部屋」とミミズが走ったような汚い字で書いてある部屋を見つける俺

龍悟「・・・・・・・・これはないわ」

取り敢えず、何故かあった板と釘と金槌があつたので即効で張り替えて字を書き直した

龍悟「ふう・・・よし! 入るか!!」

俺は意を決してドアを開けた

## 第3話 修業じやあああ！あつ・・・無理k

龍悟「おおく!!これが精神と時のヘアツ!!」

精神と時のヘアツ!!に入っただけで何で俺、膝をついてるんだ!?てか、おつも!?

龍悟「ぐっ!?!・・・ぎぎぎ・・・!?!」

ちよっ!?!マジで潰れそうなんだけど!?!?  
なんで!?!なんで!?!?

龍悟「うぐう・・・く・・・そお・・・!」

こ、こんな所で・・・負けるかあああ!!

龍悟「ま・・・ける・・・かあああ!!」

すると、俺の周りに白いオーラが立ち上り風が吹き上がりながら俺は何とか立った

龍悟「はあ・・・はあ・・・くっ!!・・・た、立ってるだけで・・・精一杯・・・だぜ・・・」

だ、だけど・・・なんでこんなに体が重いんだ?あの神様には確か精神と時の部屋しか言っていないのに・・・

??? 「なんかデケエ気を感じて来てみたら・・・オメエ誰だあ?」

あれ?・・・なんかどつかで聞いた声だな・・・?てか、俺以外に誰かいたのか!?:..  
まあいいや・・・取り敢えず何か喋らないと・・・くそっ!なかなか顔を上げられねえ・・・

龍悟「す、すみません・・・俺・・・は、初めて・・・ここに来た者・・・なんです  
が・・・くっ!!」

??? 「んん? . . . なんでオメエ苦しんで . . . ああ!? わ、わりい!? ブルマから作って  
もらった重力装置付けてたまんまだった!? ちよ、ちよつと待ってる!?」

その男の人は一瞬でいなくなると次の瞬間、一気に体が軽くなった

龍悟 「っ!? . . . かはあ!? . . . はあ . . . はあ . . . も、戻った . . . ?」

はあ . . . はあ . . . ふう . . . 早くも物語り終了する所だったぜ . . .

すると、俺の所にさっきの男の人が一瞬で現れた . . . ってえっ? . . . あれ . . . お  
かしい . . . な、なんで . . . なんで . . . !?

悟空 「オツス! オラ悟空!! いやあくわりいわりい! オラてつきりー人だと思ってたん  
だけど、まさかオラ以外にもサイヤ人がいるなんて思ってもみなかったぞお!!」

なんでこの精神と時の部屋にあの超有名人の孫 悟空さんがいるの  
おおおおお  
おお  
!!!!!!

龍悟「へあ・・・ちよっ・・・なん・・・!?」

悟空「ん?どうしたんだ?オメエ??」

や、ヤベエ・・・!?ほ、ほほほ本物の悟空さんだ!!でもなんで!?俺、悟空さんと呼んでなんて願っていないんだけど!??!

悟空「おおーい!」

龍悟「ふあつ!?ご、ごめんなさい!?き、き聞こえてますです!!はい!!ボクイケメン!!」

し、しししまったあああああ?!?!緊張しすぎてついトランクスルーのセリフを言ってしまったあああ!?

悟空「オメエ何言ってるかわかんねえぞ??」

悟空さんが眉を八の字にしながら変な奴を見る目で俺を見ていた

龍悟「あつ！いえそのですね!? えつと・・・あははは・・・」

それを見て俺も冷静になったのか、苦笑いで悟空さんに言っていた

悟空「オメエ変な奴だなあ！」

ニシシつと笑う悟空さんに俺はまた謝りながら話かけた

龍悟「すみません・・・えと・・・お、俺の名前は龍悟って言います」

悟空「龍悟か・・・よろしくな!!」

龍悟「は、はい！こちらこそよろしくお願いします!!悟空さん!!」

うおおおおお!!!お、俺・・・今・・・憧れだった悟空さんと話をしているううううう

!!すっげえええ!!

悟空「そういえば龍悟・・・オメエ何で精神と時の部屋にいるんだあ?オラ何回も使つてんだけど、オメエを見たことねえぞ?」

龍悟「ああ・・・実は、自分の部屋の所に精神と時の部と書いてあるドアを見つけまして、気になって入ってみたら今の状況に・・・」

うん・・・嘘は言っていない!てか、悟空さんに俺が転生者って言ってもわからないかもだし・・・

悟空「ふうくん・・・まあいつか!!誰がいても関係ねえしな!でも、オメエがここにきたつちゆうのはもしかして修業か?」

龍悟「あつはい!自分はまだ戦闘に関しては初心者なもので・・・」

悟空「ならオラと修業しねえか?オラ、さっきのオメエの気を感じた時に素質がある

みてえだからよ！」

龍悟「えっ・・・い、いいんですか!？」

!?!?!?  
まじかまじかマジかまじか?!?!? あの悟空さんに修業付けてもらえるだど?!?!? マジっすか  
!?!?!?

悟空「おしっ!!んじや、さっそく行くぞお!!」

龍悟「えっ?ちよっ?!?悟空さ!？」

俺の静止の声を聞かずに悟空さんは俺の頬にパンチをかましてきました・・・いきなり  
なんで避けれる筈もなく・・・

バキッ!!

龍悟「ぐぺえっ  
!?!?!?」

悟空「いいい!?!?」

泣  
思いつきり殴られて飛んでいきましたとき・・・これから俺・・・強くなるのかなあ・・・

## 第4話 憧れの存在悟空さんとの修業開始！その1

龍悟「あいたたた・・・」

悟空さんいきなりはないっすよ・・・右頬が痛い・・・

悟空「いやゝわりいな龍悟！オラと同じサイヤ人だからでえじよぶだと思ってつい振り切っちゃまってな!!」

まるでイタズラが成功したかのような子供の笑顔を俺に向けて言う悟空さんに毒気を抜かれた俺はまあいいかと思ってしまうた

龍悟「いくら俺がサイヤ人でもまだ弱いんですから・・・って俺、悟空さんにサイヤ人って言いましたっけ？」

あれ？説明したかな俺・・・

悟空「オメエ何言ってるんだ?その尻のしつぽを見れば分かるじゃねえか!!」

そう言われて俺の尻を見てみると・・・自由自在に動くしつぽがありました・・・そりゃあ誰だつて分かるわ・・・

龍悟「確かに何言ってるんですよね・・・あはは・・・これはしつぽも鍛えないと駄目だなこりゃあ・・・」

悟空「だな!!オラもしつぽがあつた時は握られただけで力が抜けちゃったからなあ・・・何ならしつぽ切っちゃおうか?」

うくん・・・確かにしつぽがあると弱点になるけど鍛えれば有用になるしなあ・・・あと、超サイヤ人4になるには絶対に必要だし・・・よし!

龍悟「いや、しつぽは残しときます!鍛えれば結構役に立つ事が多そうですし」

悟空「ん！オメエがそう言うんだったらそれでいいさ!! だけど気い付けろよ？ 月を見ちまうと大猿のバケモンになっちまうからな!!」

龍悟「ああ〜そうだった．．．大猿になったら暴れちやいますもんねえ．．．」

悟空「そうだな！それでオラは昔、じいちゃん死なせちまつたし、オラの仲間にも迷惑をかけちまつたからな．．．」

悟空さんが懐かしむ様に：．．しかし、悲しむ様に俺に語ってくれた。俺は原作を知ってはいるが、今初めて聞いた様に話しかけなくては．．．

龍悟「おじいさんをですか!?!? ．．．分かりました！極力月は見ないように心がけます!!」

悟空「ああ！オメエも気い付けろよ？龍悟! ．．．さて！修業始めつか!!」

遂に．．．憧れの悟空さんとの修業が今！始まるのだ!!! ．．．つとその前にあれを言っ

ておかないと!!

龍悟 「悟空さん!修業の前に質問いいですか!!」

俺は元気よく手を上げながら悟空さんに聞いた

悟空 「おっ?なんだあ??」

龍悟 「気ってどうやって出すんですか?!?!?」

ドンガラガツシャーン!!

龍悟 「あれ?どうしたんですか?悟空さん?!?!?」

悟空さんが盛大にコケている!?!なぜ?!?!?

悟空 「あ・・・あはは・・・そ、そこからかあ・・・よつと!!取り敢えず始めつか!!」

なんか、何事も無かった様にされたけど・・・まあいつか!!

取り敢えず修業の前に気の扱いを教えてもらった。最初は感覚が掴めなくて苦戦してた俺に悟空さんが「あの時オメエが重力に耐えてた事を思い出してみろ!!」と言われ、その事を思い出しながらやってみるとあの白いオーラが出るのを感じ、気の放出が出来た

それに伴い、気のコントロール、気弾の扱いを教えてもらった。最初は苦労したけど

手の平から気の球が出た時にはもう最高にめちやくちや喜んだ!はしやぎすぎて気弾射ちまくって気がなくなつて気を失つて悟空さんの気を分けてもらつて目を覚ましてソツコー謝つたのはいい思い出です・・・

悟空「よし!気の扱いはでえじよぶの様だな!!」

龍悟「はい!悟空さん!!」

悟空「そんじゃあ次は、オラの技をオメエに教えてやつかな!ていつても亀仙人のじつちゃんの技なんだけどな!!」

えっ・・・それつてまさか!!もしかして!!

悟空「かめはめ波つちゅー技なんだけどよお・・・1回見せた方が分かつかもな!見てろよ!龍悟!!」

ふおおお・・・ふおおおお!!リアルかめはめ波!!!リアルかめはめ波をこの目で見ら

れるのか!!!

龍悟「はい！しつかり見て覚えます!!」

悟空「よし・・・はあああ!!」

龍悟「っ!?な、なんて気だ・・・」

えっ?・・・この気の量でまだ本気すら出してないの!?!?これだけでもビリビリ痛いくらいに感じるんですが!?!?まじで化け物かよ!?!?!

悟空「かあく・・・めえく・・・はあく・・・めえく・・・波ああああ!!!」

悟空さんが両手で球体を持つように前に出したあと、その状態のまま腰の横まで持つていくと、そこから青白い気が光を放ちながら集まり、球体になっていく。そして、溜まった気を一気に両手につき出して開放したその巨大な光線は一直線に向い、徐々に細くなり消えていった・・・

精神と時の部屋にいるため、そもそも障害物が無いので真っ直ぐ行って消えていったけど、あれ受けたら堪ったもんじゃねえなと思つた俺氏

龍悟「す．．．すげえ!!!こ、これが．．．かめはめ波!!!」

悟空「そうだ．．．これがかめはめ波だ!今度はこれを覚えてもらうかな!!けど、そのめえに．．．」

!!  
うおおおお!!!俺もやりたいやりたいやりたい!!!よし!さっそくやるぞおおおお!!

龍悟「よおおおおし!やってやりますよ!!悟空さん!!はああああ!!!」

俺は覚えたての気を開放しながらさつき悟空さんがやった構えをして集中させた

悟空「ちよっ!?龍悟オメエ!?まっ」

龍悟「うおおお！かあゝ．．．めえゝ．．．はあゝ．．．めえゝ．．．はれえ  
？」

ふえあゝ．．．な、なんで．．．ち、力が抜け．．．

バタンツ

悟空「あちやあゝ．．．やつぱりなあ．．．」

悟空さんが倒れた俺をみてやつぱりみたいな顔をしながら頭に手をのせながら言っていた。しながらじやなくて完全にしてみました

龍悟「な．．．なんで．．．？」

すると、悟空さんが丁寧に説明してくれた。まあ要するに．．．

悟空「気があんまりねえのにやるからだぞ? 龍悟?」

はい・・・気が全然足りなくて事です!!今の俺はせいぜい亀仙人が修業つける前の小さかったクリリンくらいしかないと言う事なんですねぇ・・・マジかよ・・・サイヤ人だぜ?俺・・・

いや、確かに戦闘力5だった悟空さんも修業しまくって最強になったんだけどさあ・・・普通サイヤ人って生まれてすぐにけっこう戦闘力なかつたでしたっけ?

・・・でも、確かにサイヤ人にして下さいって・・・超サイヤ人4やゴツドブルーになれるようにして下さいって言う願いを言ったんだよ・・・

そう、なれるようにして下さいだ・・・つまり、最初っから気がでかい訳じゃないし、ましてや、いきなり超サイヤ人にすらなれないのである

まあ、今後の修業次第で俺が超サイヤ人になれるかなれないかが決まってしまうのである・・・もしくは、一生なれないかも・・・くそっ!これならば、悟空さん以上の気

を持ってて、超サイヤ人3超サイヤ人4・ゴッドブルーまでいつでも変身できる様にしてくれて頼むんだったああああ!!

……まあ、取り敢えず修業してみても俺の限界までやってみるか……はあ……せめて、超サイヤ人3まではいきたい……いや!!絶対にいつてみせる!!!その為には……こんな所で倒れてる場合じゃねえ!!!

龍悟「くっ……うう……うああああ!!」

悟空「んお?」

倒れていた俺の周りに白いオーラが纏わり、風を巻起こしながら……ふらふらになりながらも立ち上りながら俺は叫んだ

龍悟「サイヤ人は戦闘民族だあ!!嘗めるなよおおおおお!!!」

ドゴオオン!!と音をたてながら暴風が巻き起こった。ふらふらだった俺の足はちや

んと立ち上がった

龍悟「はあ・・・はあ・・・はあ・・・」

悟空さんは一瞬驚いた顔をしていたがすぐに元に戻り、ニヤツとしがら言ってきた

悟空「オメエ・・・ほんとおもしれえなあ・・・へへっ！ますますオメエを強くして早く闘ってみてえ・・・」

俺もニヤツとしながら

龍悟「ええ・・・俺も早く強くなって貴方と闘いたいです・・・」

悟空「フツ：：んじゃあ、さっそく強くなんねえとな!! 次の修業は「グギユルルウウ  
ウ・・・」」

龍悟「・・・」

バシユンツと俺の周りの気が消え、辺りに静肅が訪れた

2人は顔を合わせ笑顔を向けながら

悟空「飯にすつか！龍悟！！」

龍悟「ですね！悟空さん！！」

いろいろあるけど、先ずは飯だな!!!

修業はその後だな・・・

## 第5話 悟空さんとの修業その2!修行はツライよ・・・

悟空さんと俺は部屋に入り食事をしていた

龍悟「ごおふふあんふゆあしあん! (悟空さんすみません!)」ングツ!ご飯いただき  
てしまつて」

悟空「ふゆにふゆんあひゆうごお!ふおりえよりもよおつちよふえ!! (気にすんな龍  
悟!それよりももつと食え!!)」

2人のサイヤ人の食欲は凄まじかった。空になった皿で2人の顔が見えないくらい  
積まれていた

悟空& a m p ;龍悟「かあく!!食つた食つた!!」

飯は旨かった!大満足である!後で聞いたけど、全部チチさんの手作りだと言う。俺

も最初は食うのをためらった。俺も食べると悟空さんの残りの分がなくなるのではと・・・

でも、気にすんな！と言われ大量のご飯があつたので俺も食べさせてもらった。まあ、腹もなつちまつたからなあ

悟空「よし！さっそくやるぞ！龍悟!!まず、オメエに足りねえのは体力と気の量だな・・・気のコントロールはオラよりあつけえがうめえから教えるのはいろいろありそうだな・・・まずは重力の修業からいくか！」

龍悟「重力の修業ですか？ああ、確か俺が最初に入ってきた時に受けたあれか・・・因みに何倍からですか？」

悟空「んゝ・・・まずは10ベえからか！徐々にならさねえと修業になんねえかなあ！」

龍悟「分かりました！」

悟空「よし!さっそく行くぞ!」

ポチツ!

龍悟「ぐうっ!」

ズウン!!と体が重くなり片膝を付いてしまった・・・おっ・・・重い!!

悟空「10ベえでもきちいだろ?オラも界王様の星に行った時は立つのもやつとだつたかんなあ!」

龍悟「くっ・・・こ、この程度・・・!」

俺は無理にでも立ち上がってみせた。すると、悟空さんはそうこなくつちやな!と言いながら笑った

悟空「んじゃ!このままオラと闘うぞ!!」

龍悟「えっ?慣れるまで歩くとかせめて動きやすくなるまで待つてくれるんじゃ

あ・・・」

悟空「なにいつてんだオメエ？そんなんじやいつまでたつても強くなんねえぞ??それにオラの勘がいつてんだ・・・オメエはただもんじやねえつてな！」

悟空さんは本当に勘が鋭い人なんだなあ・・・薄々転生者つてのをわかつてんじやないかなあ・・・でも、悟空さんにそこまで言われたらやつてみるしかない!!絶対に悟空さんに勝つてやる!つて気持ちでやつてやるぜ!!

龍悟「・・・よろしくお願いします!!」

それから何日・・・いや、精神と時の部屋だからもう何十年?か修業してんじやないんかなあ?取り敢えず、ざっくり説明すると・・・地獄でした・・・

いや、だつてな!?!悟空さん全然容赦しないんだもん!!

悟空「たぁりやあ!!」

龍悟「ちよつ!悟空さん!!おわあっ!?」

重力であまり動けない俺に普通に攻撃する悟空さんに咄嗟に判断した右手で蹴りを受け止めた。いつてえええ!!おつもおおい!!すつごおおい!!君は戦いが得意なフレンズなんだね!!つて違う!!!

悟空「へへッ・・・やつぱりなあ!オメエは勘が鋭いかなあ・・・受け止めると思ってたぞお!!まだまだ行くぞ!」

龍悟「iiiiiiiiいやあああああ!!!」

動けないつつーのに格闘の連打と気功弾の連打・・・10倍で慣れてきたら10倍ずつ上がつてく重力・・・さらに死になつたから仙豆をこつそり食べて回復したのをいつの間にかいた悟空さんにガツツリ見られてて恐怖の言葉を言われたのを今でも覚えてる・・・

悟空「おっ？仙豆じゃねえか！オメエなんで持ってた？・・・まあいつか！そんな事よりそれ持ってんじやあもう少し強くやってもでえじよぶかな？」

ふふふ・・・最初は聞き間違いかな？って思ったさ・・・でも違かった。その日から更に修業は厳しくなりました○

今では、100倍重力もへでもありませんよ!!もうめつちや動きまくって悟空さんと闘えますとも!!でも悟空さん・・・いくら面白くなつたからといって界王拳出さないで下さい!!しかもいきなり20倍って!!死ぬ!!これじゃあ団まち原作入るまでに死んじゃううう!!らめええええ!!

瀕死になる度に仙豆を使って回復↓悟空さんと戦闘↓回復↓戦闘の地獄ループでした・・・でも、確かに強くなつてはいる。サイヤ人の能力、瀕死の状態で回復すると戦闘力が上がるって言うけど本当だったんだなあ。確かに瀕死になって回復すると強くなつてるのが感覚で分かる

俺もあの悟空さんの攻撃(界王拳20倍状態)を少しずつだけガード出来てるし、舞

空術も戦闘中に覚えて使いこなしてるのを悟空さんは驚きながらも少し口角を上げた後に気にせずに戦ってたし・・・

あつ!そういうえばあの高速で移動して戦うの俺も出来ました!!出来るかなあと思っ  
てやったら悟空さんのお腹に一撃与えられたのを今でも覚えてる・・・まあ、直ぐに背  
後に周られて両手でガツチリ掴んだ殴りで地上とキスしてしまったがな!!

そんなこんなで色々地獄の・・・じゃなかった楽しい修業は終わりを迎えようとして  
いた

悟空「龍悟!オメエ強くなったなあ!!オラも何発かいいのもらっちゃったぞお!!」

龍悟「はい!これも悟空さんのお陰です!!ありがとうございます!!」

悟空「そおう固くなるなよ!!オラに敬語なんていんねえぞ?」

龍悟「はい、あついや、分かった悟空さん!せめてさん付けだけは許してほしい」

悟空「んゝゝゝ分かった！」

悟空さんにため口って恐れおおいんだよねゝゝまあ慣れるしかない

悟空「所で龍悟！オラもうそろそろけえらなきやいけねえんだゝゝ」

龍悟「えっ？あつゝゝそうですねゝゝいつまでもいる訳じゃないですもんねゝゝ」

せつかく地獄だと思ってた修業が楽しくなってきたのにゝゝって何いつてんだ俺！?  
あれ！まさか、サイヤ人の本能在戦いを求めてるのか！?

悟空「そう落ち込むなって！またオラも修業しに来るからよ!!」

龍悟「悟空さんゝゝありがとう！その時はまたよろしく頼みむぜ!!」

悟空「だけど、行く前にオメエにオラの技を教えてやる。オラはオメエならこの技と

姿ならなれるって信じてっからな!!」

悟空さんが俺に教えたい技と姿だって・・・・・・・・えっ?・・・・・・・・まさか・・・

悟空「オメエはオラの界王拳もものにしたかなあ・・・界王様も驚くだろおなあ!!」

そう!!必死の激闘により俺は悟空さんの界王拳を見て覚えてしまったのだ!!・・・・いや、見て覚えてたってか原作で知ってるから試しにやったら出来たって話で・・・・・・・・えっ?何倍まで・・・・・・・・?20倍までですが?ドヤア!!

ふおおお!?キーン・・・・ドカアンツ!ドヤ→ガオ←ウザ→イデスウ←

・・・・・・・・はっ!?な、なんか筋肉モリモリモリマッチョマンの変態サイヤ人に岩盤に押し付けられたような・・・

## 第6話 いきなりの戦闘!?!ちよっ!?!まっ!?!

悟空「んじゃあ、まずは技から教えっぞお? オラの真似をするんだぞ?」

もう言わなくても分かるよね? 悟空さんには、あの伝説のかめはめ波と何故か元気玉も教えてもらいました! かめはめ波はすぐに習得出来たけど、元気玉はやり方だけ教えてくれました。悟空さんによると精神と時の部屋には俺達以外に生きてるものが少なすぎるかららしい。

悟空「まあ、龍悟だったらすぐ覚えれるだろお! 気の扱いはうめえかな! それともう一つは……ハアアア!!」

悟空さんはいきなり力を入れると、眩く光、風が荒々しく吹き荒れた。俺は、とっさに両腕を庇い暫くしてから悟空さんを見た……やっぱり、超サイヤ人だ!!

悟空「これが超サイヤ人……優しい心を持ちながら激しい怒りによつて目覚めた伝説

の戦士……らしいぞ?」

うわあ……超感動するんだけど……!?黒髪から変身すると逆だった金髪になり、瞳は黒からエメラルドグリーンに……更になんと言ってもこの威圧感と莫大な量の量?!?!?ハンパない……

龍悟「超……サイヤ人……」

悟空「そうだ……オラもこの力をもものにするのには苦労したんだけどな? だけんどよお……オメエなら絶対になれるってオラの感がそう言ってるんだ」

龍悟「悟空さん……はい!! になります……絶対になってまた悟空さんと闘いたいです!!」

悟空「ああ……オラもだ……ふう……オラはもつともつと強くなる。だからオメエも、もつともつと強くなれ!! 次に闘うんがたんのしみだなあ……!!」

そう言った悟空さんは、精神と時の部屋のドアに手をかけながら後ろを振り向いて俺に向かつて「じゃあな！龍悟！またな!!」と言つて俺が返事をした後、去つて行つた……

龍悟「いや……まさか悟空さんがいる精神と時の部屋とは……びっくりしたなあ……でも、貴重な修行が出来たんだから良かったぜ!!……だけど、あの悟空さんつてどのくらいまで変身出来るのかな？フリーザ編が終わつてると思うから人造人間編に入る前とか？いや、でもそしたら悟飯ちゃんがいるはずだけど……まあいつか!!難しい事は分かんね!!」

取り敢えず、今試したくてウズウズしてる……よし!!

まずは、両腕を前に出しながら……

かあ~~~~~……

両腕を何かを掴む様な形にして合わせて……

めえくくく……

そして、そのままの形で腰にまで持つて来て……

はあくくく……

気を溜めて……溜めて……

めえくくく……

放っ!!!

波あああああああ!!

すると、俺の両腕から青白い極太の光線みたいなのが勢いよく放たれていた。そのまま真っ直ぐに飛んでいき徐々に光線が細くなり途切れた。

……ふおおおああああ?!? 出来た!? 出来たできた?!? あの憧れのかめはめ波が出来ましたああああ!! やつべ!! マジヤベエかめはめ波!! 転生前は全然てか絶対に出来ないんだけど密かに練習してたかめはめ波がこの転生で出来たんだああああ!! イヤッ  
ふうふうふう!!

……えっ? 今黒歴史言ってたって……? ……忘れろ!! 今すぐ忘れろ!!! 忘れな  
かったら俺の全力かめはめ波撃つぞ!!!

はあ……はあ……と、取り敢えずかめはめ波は撃つ事が出来た……次は、超サイヤ人  
だ!!

## 閑話休題

何の成果も……得られませんでしたああああ!!!

って何でだよ?!?!?何でなれないん?!?!?た、確か激しい怒りによってだからベジータさんやバーダックさんみたいになれない……情けない!!?って自分の力の弱さに怒るみたいにならなくて……情けない!!?っていうか……まず、怒りより楽しいが勝ってるから変身出来ないんだと思う……プライドとか無いからなあ……俺……

うん!!いつかなれる!!多分、ダンまちのオツタル……だったか?が確か、レベル7とかだからもしかしたら俺より強いかもしれない!!俺には経験とかないし……気楽に

やっつけてくしかない！

龍悟「さて、俺も精神と時の部屋から出るか」

そう言つて俺は、ドアを開けて自分の部屋に戻つて行つた……あれ？確か、悟空さんも同じ所から出てつたよな？つて事は悟空さんもダンまちの世界にいる!?………ないよね！悟空さんの気、全然感じないもん!!うゝむ、精神と時の部屋は謎が多いですな……

龍悟「来たぜマイハウス!!まずは飯!!……つて言いたいけどもう無いんだよねえ、食材……と言つて仙豆だ……食べ……」

仙豆が入ってる壺から一粒取り出して食べる。カリッ!ゴクンツ!よし!!腹はいっぱいになつたけど、やっぱり料理食いてえ……チャントカメヨ……ん?何か聞こえた気が……気のせいかな!

龍悟「さあつて……まずは、ここが何処かな?取り敢えず、ドアオープン!!」

ドアを開けたその光景は……………!!!

一面緑だらけの森でした。ありがとうございました。…………はあ、誰もいないパターンだったか…………つか、オラリオじゃないし、森かよ…………仕方がない!!誰かいないか気を探って見よう!!

う…………む…………ん?遠いけど、2人分の気を感じる…………しかも、強いかも…………ちよっ  
と行ってみるか!!舞空術だと、怪しまれるから走って行こう!!

ティオネ・ティオナ サイド

ティオナ「ねえくえくティオネえく!歩くのつくかくれくたく!!おぶつてよおく  
!!」

ティオネ「あああもうウツサイわね！ティオナ！！黙って歩きなさい！！」

全く、依頼を終わらせたのはいいんだけど、コイツが駄々こね始めちゃってやんなるわ。私だって早く帰ってご飯食べたいわよ！！

ティオナ「ふうふう！………ていうか今回の依頼も楽勝だったねティオネ！！なんか、レベル5くらいの強い盗賊の男だとか言ってたけど全然弱かったね？」

ティオネ「そうねえ？聞いた割にはつまんなかったわねえ………少しは楽しめると思ってた素手で勝負したってのにたった2く3発でやられるんだもの。男って軟弱くよねえ」

ティオナ「きつと依頼主が話を盛ってたんじゃない？」

ティオネ「可能性は高いわね………つたく、団長も団長よ！なあにが、「僕の親指が反応しないって事は大した依頼じゃない………けど、報酬はいいから2人共行ってきた？」よ！！あの時、憂さばらしにダンジョン行こうとしてたのにいいいい！！」

ティオナ「ねえく……ん? ティオネ!!」

ティオネ「分かつてる……誰かこつちに来る……この速さ……只者じゃない……」

ティオナ「っ!? 来た!?!?」

ティオナが喋った瞬間、見たこともないオレンジ色の服装をした男が前からもの凄い速さで走って来たのにも関わらず疲れもみせていない様子でしかも、変なポーズで私達の前に立ち止まった

ティオナ・ティオネ「……………」

男「……………!?!」

警戒する私達を見てその男は何故か一瞬驚いた顔をしていた。気付いてる……私達がロキ・ファミリアの団員だって事を……って事は……敵!!

ティオネ 「ティオナ！行くわよ!!」

ティオナ 「了解！ティオネ!!」

流石、私の妹!!こういう時はホント頼りになるわね!!

男 「うえっ!?ちよっ!?まつ!？」

相手が静止をかけてくる……でも、聞かない!!だって……あんなに闘志が漏れてるんだもの!!最初から闘う気満々だったってことでしょ!!油断なんかしない……全力で叩き潰す!!話はそれからね!!